

知的選好と歴史に関する文章に見出す面白さの関連 Relationship between intellectual preference and perceived interestingness of historical texts

佐々木 一洋[†], 清河 幸子[†]
Kazuhiro Sasaki, Sachiko Kiyokawa

[†] 東京大学
The University of Tokyo
339kazuhiro@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

概要

本研究では、歴史上の事件についての文章を用いて、知的選好によって内容に見出す面白さにどのような違いがあるかを検討した。知的選好尺度にオンラインで回答した成人 341 名のうち、メカニズム選好とフレーバー選好のいずれか一方に偏った参加者 11 名を対象として、インタビュー調査を行った。文章を読んだうえで、面白いと感じた内容について尋ねた結果、選好によって同じ内容でも面白いと感じる側面が異なった。また、知りたいと感じる情報にも異なる傾向が見られた。

キーワード：知的選好 (intellectual preference), 面白さ (interestingness), 個人的興味 (individual interest), 歴史 (history)

1. はじめに

学習内容に面白さを見出すことは、学習の質の向上や自律的な学習行動の促進など、学習によい影響を与えるとされてきた (Cerasoli et al., 2014; Hidi & Ainley, 2008)。内容に面白さを見出だすかどうかには、そもそも学習者がどのような領域に興味を持っているかが影響することは明らかであり、このような特性は個人的興味とよばれる。これに加えて、学習者が使う教材や受ける説明など、学習内容がどう提示されるかも内容に面白さを見出だすかに影響すると考えられる。このような対象の特性は興味深さ (interestingness) と呼ばれる。特に文章読解においては興味深さとして、登場人物への感情移入のしやすさ、イメージ価、新奇性、人生に関わるテーマ性、行動の激しさなどの要素が挙げられている (レビューとして Krapp et al., 1992)。こうした要素に見いだされる面白さについて、Hidi & Biard (1986) は欠落した情報が補われることなどによる知識誘発型の面白さと、個人の価値観によって見出される価値誘発型の面白さがあると指摘した。しかし、価値誘発型の面白さにはどのようなものがあり、その感じやすさにどのような個人差があるかは十分に明らかになっていない。

こうした価値を捉える枠組みとして、知的選好があ

る。知的選好とは、知的活動において内容のどのような側面に面白さを見出すかである。佐々木・清河 (2023) は知的選好の個人差を捉えるため、「メカニズム選好」と「フレーバー選好」の 2 つの選好からなる知的選好尺度を開発した。メカニズム選好とは、対象の構造や本質を捉えようとし、出来事の因果関係を重視し、より抽象的な形で理解することを好む傾向である。フレーバー選好とは、対象のエピソード性や物語性、背景を捉えようとし、表現の豊かさを重視し、より具体的な形で理解することを好む傾向である。佐々木・清河 (2024) は、歴史において自身の知的選好に合致する側面を認識することで面白さを見出しやすくなり、そのことが興味を高める可能性があることを示している。しかし、知的選好の違いによって内容に見出す面白さにどのような違いがあるかは明らかとなっていない。

本研究では、メカニズム選好とフレーバー選好のいずれか一方に好みがある参加者を対象とし、歴史上の事件についての文章を用いて、内容に見出す面白さにどのような違いがあるかを調査する。また、文章を読んで、「気になる」「もっと知りたい」と感じた点に知的選好による違いが見られるかについても検討する。

2. 方法

2.1 スクリーニング

成人 341 名を対象とし知的選好尺度 (佐々木・清河, 2023) を実施した。参加者は「実験・調査等の参加情報 | 心理学・経済学・工学など (<https://www.jikken-baito.com>)」への掲載によって募集した。メカニズム選好およびフレーバー選好の得点を標準化し、回帰分析を行った後、回帰直線からの距離が 1SD 以上離れていて、高いほうの選好の標準化得点が正であるものを抽出し、オンラインインタビューの参加を募集した。この際、「スコットランド女王メアリー・スチュアート」「羽柴秀吉の行った中国大返し」という 2 つのテーマについて全く知らないもしくは聞いたことはあるが詳しく

表 1
参加者の得点、性別、年齢、最終学歴

ID	MP 平均	FP 平均	優位 選好	性 別	年 齢	最終学歴 (卒業/修了)
70	4.50	3.60	MP	男	24	高校
285	4.00	3.10	MP	男	34	修士
74	3.88	3.00	MP	女	34	修士
231	3.88	2.90	MP	女	53	修士
240	4.63	3.60	MP	女	24	高校
90	4.38	5.00	FP	男	24	高校
1	3.38	5.00	FP	女	33	大学
17	4.38	4.90	FP	女	31	大学
78	3.88	4.70	FP	女	27	大学
114	3.63	4.60	FP	女	28	大学
185	4.75	5.00	FP	女	50	大学

MP：メカニズム選好，FP：フレイバー選好

知らない者を対象とした。本稿では、インタビュー調査に参加した 33 名のうち、回帰直線からの距離が 2SD 以上離れている 11 名のデータに対する結果を報告する (表 1 に参加者情報を示す)。

2.2 素材文

素材文として、「メアリーの処刑と暗号」「中国大返し」というタイトルの 2 つの文章を第一著者が作成した。これらの文章の作成にあたっては、メカニズム選好およびフレイバー選好において好まれる要素 (佐々木・清河, 2023) を含むようにした。本稿では後者の「中国大返し」に対するデータを報告する。この文章は、中国地方に遠征に来ていた羽柴秀吉が明智光秀の謀反を知り、異例の速度で京まで行軍したことについて記されたものである。なお、文章の内容については専門家の確認を受けていないため史実に沿わない可能性があるが、本調査の目的上は支障ないと判断した。これらの素材文は OSF (<https://osf.io/sdvhq/>) から参照できる。

2.3 手続き

まず、ブリーフィングと参加の同意確認を行った。次に、参加者には、「メアリーの処刑と暗号」の文章を読みながら、「気になる」「もっと知りたい」と思った箇所にマーカーを引くよう求めた。時間は最大 15 分とし、一度読んだ箇所を読み返してもよいものとした。読み終わったのち、まず面白かった内容について尋ねた。説明が短くどのような面白さかわかりづらい場合には、

その内容がどのように面白かったかをより詳しく説明するよう求めた。その後、マーク箇所について、どのようなことが気になる、あるいは知りたいと思ったかを 1 つずつ確認した。すべてのマーク箇所を確認したのち、内容について面白かったことについて付け加えたいことがあるかを確認した。

文章を読む間は、参加者はカメラをオンにしたうえで画面共有を行った。インタビューは zoom の録画機能を用いて録画した。この際、参加者はカメラをオフにすることを許可された。インタビューを終えたのち、「中国大返し」についても、文章を読む時間を最大 10 分としたことを除き、同様の手続きを行った。

2.4 分析

コーディングはすべて第 1 著者が行った。まず、面白いと感じた内容について述べている箇所を抜き出した。内容について「～がすごかった」など、内容に価値を付与するものも面白さについての言及とみなした。マーク箇所について述べる際にも面白さに言及する場合があったため、これらも面白さについて言及しているものとして分析した。

次に、各マークした箇所について述べている内容で、「～はなぜか分からなかった」「～について知りたい」「～について書いていなかった」など何かに疑問を持ったり、何らかの情報を求めたり、何らかの情報の不在を指摘するような発話があった箇所も抜き出した。

その後、抜き出した各箇所について第一著者が類似する記述をまとめたのち、面白いと感じた内容と知りたい情報のそれぞれについて、メカニズム選好に偏った参加者 (以下 MP 優位) とフレイバー選好に偏った参加者 (以下 FP 優位) がそれぞれ何人ずつ言及していたのかを集計した (面白さに関する結果を表 2 に、知りたい情報に関する結果を表 3 に示す)。

3. 結果

3.1 面白さ

面白いと感じた内容について、すべての参加者が最低 1 つ言及していた。言及された箇所は、MP 優位 19、FP 優位 10 であった。以下では同じ選好が優位である者が複数名共通して言及した箇所について述べる。

FP 優位では、「現代とのつながり」に 2 名が面白さを見出した。これらはいずれも情報戦の重要性を自身の経験や現代の状況と結びつけて述べたものであった (例として FP114)。

表 2
言及された面白さと言及した人数

面白さを感じた内容	MP	FP
現代とのつながり	0	2
秀吉が天下統一に至る過程	3	1
秀吉の能力	2	3
武力でなく情報戦	2	1
光秀側の視点の存在	2	1
歴史的な出来事の詳細化	4	0
歴史の偶然性	1	1
行軍の異常なスピード	1	0
信長の読みの甘さ	1	0

MP:メカニズム選好優位, FP:プレーバー選好優位

FP114: 現代もたくさんの情報がある中で、その何が正しいのかとか。その、そうですね、真実じゃないものが、その、出回って、それによって操作されるっていう現象がたくさんあると思うので、この、昔からもあるんだなっていうところで思いました。

また、秀吉の果敢さや、賢さといった「秀吉の能力」が感じられたことを 3 名が面白さとして挙げた (例として FP185)。これについては MP 優位でも 2 名が指摘したが、それがどのような箇所に表れているかより具体的に指摘していた (例として MP70)。

FP185: 秀吉はすごくこう、有能なあの、武将だったと。武将というか、策士だったというのは、あの、いろんな歴史の授業とかで聞いてましたけれども、あ、その、こういうふうなことやってたんだなあっていうのを知って、改めて策士だなと思いました。

MP70: 線引いた部分でもあります、ええと、かなり大胆なハツタリをかましてる、っていうところはすごいなと思いました。(中略) 結果的には大勢が動いて、ええ。秀吉側の有利に動くっていう。この、ええ、咄嗟の判断っていうのはもう、そう、面白く感じました。

MP 優位では、「秀吉が天下統一に至る過程」に 3 名が面白さを見出し、「歴史的な出来事の詳細化」に 4 名が面白さを見出した。これらはいずれも信長の死と秀吉の台頭という事実を知りつつも、その間に起きたことを知らなかったことに言及し、その内容の面白さを述べるものであった (例として、MP240)。

MP240: 本能寺の変自体は知ってたんですけどその後の、ええと、話は知らなかったの。豊臣秀吉が天下を取るまでに、なんかこういうストーリーがあったんだなっていうのがわかって、あ、なんか取るべくしてとったんだなっていうのは面白かったです。

また、武力でなく情報戦で光秀と秀吉の優劣がついたことに 2 名が面白さを見出し、敗者である光秀側にも戦略があったという点に 2 名が面白さを見出した(例として、MP231)。

MP231: 少ししか触れられていなかったんですけど、あの、弔い合戦のところで光秀が誤算してしまってたっていう。(中略) 光秀もおそらくかなり策を練ってプランして挑んだのに、でも秀吉に勝てなかったっていうところがとっても面白いです。

3.2 知りたい情報

MP 優位の 1 名を除き、すべての参加者が何かに疑問を持ったり、何らかの情報を求めたり、何らかの情報の不在を指摘したりすることを、最低 1 回は行った。これらに該当する箇所数は、MP 優位 8、FP 優位 26 であった。以下では同じ選好が優位である者が複数名共通して言及した箇所について述べる。

FP 優位では、文中に書かれている内容をより詳細に知ろうとするものや、本文ではほとんど触れられていない周囲の状況について知ろうとするものが見られた。例えば、秀吉の情報網がどのような手段で情報を集めるものであったかや、秀吉と光秀の争いの際のほかの家臣の動きなどである。

MP 優位では、文中の出来事の原因や影響した要因についてより詳しく知ろうとする傾向にあった。例えば、秀吉の偽の情報なぜ有効であったかや、光秀がどのような結果を目指して戦略をたてていたかなどである。

「中継基地の物資に関する状況」についてはどちらでも言及があったが、知りたい内容が異なった。FP 優位では、その物資がどのように用意されたものかなど、行軍に直接関係ない周辺的な情報が知りたい内容として言及された。これに対し MP 優位では、秀吉が中継基地にいた人物にどう話をして物資を入手したかという、行軍を可能にした要因が知りたい内容であった。

最後に、マークした箇所の一部について、単に疑問を持つだけでなく、実際に書かれている通りの状態であ

表 3
知りたい情報と言及した人数

知りたい情報	MP	FP
行軍の詳細	0	2
秀吉の情報網の詳細	0	4
中継基地の物資に関する状況	2	4
秀吉が流した偽の情報の有効性	2	1
信長の従者が少なかった理由	0	1
行軍に必要なのは物資のみか	0	2
ほかの家臣の動き	0	3
光秀の読みの根拠	2	1
毛利との和平に至る詳細	0	2
秀吉の真の意図	0	1
秀吉の能力の由来	1	1
山崎の戦いの内容	0	1

MP:メカニズム選好優位, FP : フレーバー選好優位

ったか疑わしいと述べたものが, FP 優位では 4 名, MP 優位では 1 名であった。FP 優位では, 行軍を可能とした重要な要因が物資の補給であるとされていることや, 描写されている秀吉の心情について, 実際と異なるのではないかという疑念が示された。一方 MP 優位では, 本文で秀吉が中継基地の物資を利用したことについて, 中継基地にも人がいる以上, その物資は簡単には利用できないはずだという疑念が示された。

4. 考察

本研究の目的は, 知的選好によって歴史に関する文章に見出す面白さにどのような違いがあるかを明らかにすることであった。

まず, どちらの選好が優位である参加者も秀吉の能力に面白さを見出していたが, MP 優位が有能さを示す箇所を具体的に挙げる傾向にあるのに対し, FP 優位は全体的な印象として語るにとどまる傾向にあった (例として FP185, MP70)。このことから, MP 優位は具体的エピソードを抽象化して秀吉の有能さを理解したのに対し, FP 優位は個々の具体的なエピソードから連想的に秀吉の有能さを感じとったと考えることができる。しかしこれだけでは, FP 優位が具体的なエピソードに興味を持っていないという可能性も否定できない。

次に, 知りたいと感じる情報についてみると, FP 優位には詳細を知りたいという言及が多く見られる(表3)のに対し, MP 優位にはそのような言及があまり見られ

なかった。このことから, FP 優位は具体的なエピソードに興味を持っていないのではなく, むしろ本文の記述の具体性の程度では満足しなかった可能性がある。加えて, 本文ではほとんど触れられていない周囲の状況について知ろうとする傾向も見られ, これは出来事の背景を捉えようとするというフレーバー選好の定義に合致するものである。

また FP 優位は 6 名中 4 名が本文の記述の一部に疑念を示していた。これは, 本文の記述が事実の一側面を示すものでしかなく, 全体像を示すものではないという前提で文章を読む傾向があることを示しており, さらにエピソードや背景を求めるというフレーバー選好の他の傾向に関係していると考えられる。

このような違いが示唆されたものの, 少数の対象者から 1 つの資料に対して得られたデータに基づくものであり, その一般性に関しては検討の余地がある。今回見られた知的選好による違いが, 他の資料や他の参加者でも共通するかについては今後の検討が必要である。加えて, 各知的選好において知りたいと感じられる傾向にあった情報の有無によってどの程度面白いと感じるかが異なるについて検討していく必要がある。

文献

Cerasoli, C. P., Nicklin, J. M., & Ford, M. T. (2014). Intrinsic motivation and extrinsic incentives jointly predict performance: A 40-year meta-analysis. *Psychological Bulletin*, 140(4), 980–1008. <https://doi.org/10.1037/a0035661>

Hidi, S., & Ainley, M. (2008). Interest and self-regulation: Relationships between two variables that influence learning. In D. H. Shunk & B. J. Barry (Eds.), *Motivation and self-regulated learning: Theory, research, and applications* (pp. 77–109). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates Publishers.

Hidi, S., & Baird, W. (1986). Interestingness: A neglected variable in discourse processing. *Cognitive Science*, 10(2), 179–194. [https://doi.org/10.1016/S0364-0213\(86\)80003-9](https://doi.org/10.1016/S0364-0213(86)80003-9)

Krapp, A., Hidi, S., & Renninger, K. A. (1992). Interest, learning, and development. In K. A. Renninger, S. Hidi, & A. Krapp (Eds.), *The role of interest in learning and development* (pp. 3–25). Lawrence Erlbaum Associates, Inc.

佐々木 一洋・清河 幸子 (2023). 知的活動において感じる面白さの個人差——知的選好尺度の開発—— 日本認知科学会第 40 回大会発表論文集, 734-737.

佐々木 一洋・清河 幸子 (2024). 知的選好と特性興味の関連——「歴史」を対象とした検討—— 日本認知科学会第 41 回大会発表論文集, 445-448.